

発表テーマ 概要(発表順)

施設名	テーマ概要	
豊島病院	都立	<p>保険請求データの「質」を高めよう！～DPCコードの適切な決定 PART2～ 正確なICD10コーディングはDPC請求上、また、データ分析を行い医療の質を向上させるためにも非常に重要である。DPC室ではコーディングの「質」を高めるため、医師との対話を重視し、コーディングに関する様々な情報発信を行うと共に、質問シートの改善や診療録記載の周知を図った。その結果厚生労働省からのエラーデータ91件を翌年には20件まで減少させることができた。</p>
東京都多摩がん検診センター	公社	<p>新規事業『日帰りがんドック』～早期発見は自分のため家族のため～ 昨年度施行された「がん対策基本法」により精度の高いがん検診の需要は増加すると予想される。当センターでは、新規事業として一次検診を一步押し進め、がんに特化した「日帰りがんドック」を7月より開始したが、11月末現在で受診者数41名(予約率40%)という状況である。予約率を上げるためどのようにPRしていくか検討し、取組を行った。</p>
広尾病院	都立	<p>自助・互助・公助 “自分と大切な人の命を守れますか？” 災害に備え自助・互助を高めることは減災対策の上で重要である。外来受診患者の中には災害ストレスに弱い慢性疾患を持った患者も多い。そこで、外来待ち時間を活用し、家庭での備えや、応急処置に関する講習会を実施した。これにより災害医療センターとして患者サービスの向上につなげることができた。</p>
梅ヶ丘病院	都立	<p>自閉症などの広汎性発達障害児に対する入院時検査でのプレパレーションの導入 自閉症児への入院時検査の不安を和らげるため、7種類のプレパレーションカードを作成した。検査科の協力と職員の意見により、修正や改善を行なった。その結果、検査は順調に行なえ、カードの活用も外来など多岐へと広がりを見せた。今後も工夫や改善に努め、よりよいものへと完成させていきたい。</p>
大久保病院	公社	<p>車椅子に点滴架台を固定するための補助具の作成～患者移動時の安全性を向上させる～ 車椅子と点滴架台を連結する補助具を作成した。これにより点滴架台の転倒等の事故を防ぐことができる。アンケート調査の結果から患者の安全性や職員の作業効率は改善し、補助具の必要性も高かった。補助具は同じ形状のものを大量に作成できるため、需要に応じて大量に作成することが可能である。</p>
八王子小児病院	都立	<p>「猫の手」貸します 患児への酸素・薬液吸入に使用する蛇管の固定方法については、小児特有の問題点がいくつか挙げられていた。今回、上記における問題点を詳しく検証し、新たな蛇腹管固定用具を開発した。その結果、蛇腹管固定時の安定性が確保され、酸素・薬液吸入の効果向上及びより効率的な看護業務が可能になった。</p>
府中病院	都立	<p>フィッシュ！！が病棟で泳ぎ出した 当院は、平成19年度救急車搬送1万台であり、病床稼働率91.4%と非常に繁忙度の高い病院である。そんな中で「態度を選ぶ」「遊ぶ」「人を喜ばせる」「注意を向ける」の4つの原理からなるフィッシュ哲学を導入し、活気に満ちた働きやすい職場環境の改善に取り組んだ。その成果について紹介する。</p>
駒込病院	都立	<p>Voice Be Ambitious～手術待機のご家族に安心情報お届け～ 手術待機中の家族の不安を解消するために17時以降の延長手術に対し、終了時間の報告サービスを実施した。その結果、家族の安心感と満足感が得られた。また、職員の接遇とチームワーク医療の向上が実現できた。今後は、全症例の手術において予定時間が延長した際の報告方法を検討する。</p>

施設名		テーマ概要
神経病院	都立	ベッドサイドのコード類の整理 ベッド周囲のコード整理はおまかせ！ ベッド周辺には、医療機器等複数のコード類が散在し、看護師等の足元が危険な状態である。整理整頓目的で「お手製カラビナくん」と「特製絶縁フック」を作成した。その結果、コード類の整理が容易になり、ベッド周囲の安全対策と環境整備促進に役立った。
清瀬小児病院	都立	抑制チョッキの改善・作成 現在使用している抑制チョッキは構造上有効な安静保持が出来ない状況であり、色・デザイン共に無機質で印象も冷たい。そこでデザインの的にも工夫をしながら抑制を最小限に抑える為に効果的な安静保持が可能となる抑制チョッキの作成に取り組んだ結果、患者様にも看護師にも好評を得ることが出来た。
荏原病院	公社	栄養補助食品の使用適正化によるコスト削減 給食材料費が高騰していることから、一般の食品に比べて高額な栄養補助食品に着目し、コストの削減を目的とした。提供品目や提供量の適正化、関係者への周知徹底を行なうことにより、コスト削減が図れた。今後は患者満足にも配慮した品目の整備、適切な使用により、徹底した価格管理に取り組んでいく。
大塚病院	都立	わかりやすい医療被ばく説明のために 患者さんの医療被ばくへの関心が高まる中で、放射線技師は、放射線検査被ばくの質問に対して全員が正確に回答する必要がある。今回、「医療被ばく説明マニュアル手帳」を作成し全員が常時携帯することで誰でも同じ回答が可能になった。この手帳には業務上必要な事項も記載されており、活用の幅を広げている。
墨東病院	都立	災害時のパニック防止対策～あわてません！何があっても～ 当院は災害拠点病院で、患者の安全と住民への医療を担う責務がある。パニック時に的確に動ける体制を構築し危機管理を徹底するため、初期対応手順書、パニック防止用持ち出し袋を作成し訓練を実施した。その結果、職員の認識が高まり災害時の迅速な対応が可能となった。今後も継続して取り組んでいく。
東部地域病院	公社	物品ダイエット 期限切れ診療材料の削減を目的として診療材料の物流に目を向けた。その結果、過剰在庫や保管状況などの問題点が明らかになった。診療材料定数の検討・請求方法の変更・職員の再教育・保管法の改善などを行い、大きな成果を挙げることができた。今後は常に一定の物流管理が行えるよう、マニュアル化を図っていく。
松沢病院	都立	蚊の発生防止対策で蚊の減少を図る 当院は広大な敷地を有し、自然環境にも恵まれている。それゆえに害虫の発生も多く、特に感染症を媒介する蚊の発生は大きな問題となっていた。本取組は蚊の発生を防止するプロジェクトの2年目である。昨年の結果を踏まえ、「ハープ大作戦・水溜り撲滅・雨水マスの水質管理」をテーマに活動した。
多摩北部医療センター	公社	業務分担の見直し～薬剤師の病棟常駐を試行して～ 業務分担の見直しの一環として、9月から薬剤師が2病棟に半日ずつ常駐している。薬剤師が看護師の指示受け前に処方を確認し配薬準備まで行うので、医療安全の強化、医師・看護師の負担軽減になっている。また、服薬指導件数も大幅に増加するなど、患者サービスの向上や経営改善にも貢献できている。
多摩南部地域病院	公社	忙しくても！グチもコストも、もらしません 煩雑な業務の中、行った処置と診療報酬に対する意識が希薄になっている面があった。そこで、スタッフの意識調査や疑問点の洗い出しを行い、医事課との連携により、請求漏れ対策を実施した。その結果、病棟独自の解釈や傾向を明らかにすることができ、意識改革と収益改善に繋がった。